

「歩く」都市のデザイン

■研究者のプロフィール

富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科
准教授・博士（工学）

たかやなぎ ゆりこ
高柳 百合子

TEL：076-411-4887

E-mail：yurikot@sus.u-toyama.ac.jp

URL：http://www3.u-toyama.ac.jp/crbslab/



研究シーズの概要

「人中心の都市デザイン」の潮流

近年、世界各地で「人中心の都市デザイン」への転換が顕著に進んでいます。その象徴的な具体例が、パリの「15分都市」構想です（図1）。これは、自宅から徒歩や自転車で15分以内で一通りの生活サービス機能が享受できる都市を目指すもので、市民が生活の中で交流する場を創出することを重視しています。具体的には、車の速度制限、自転車レーンの整備、駐車場の廃止と公園の整備などが積極的に推進されています。

自動運転やドローンといった新たなモビリティ技術が進展する現代において、だからこそ「歩行者や自転車を中心に都市をデザインする」という考え方は、世界の都市デザインの大きな潮流となっています。これは流行ではなく、より持続可能で質の高い

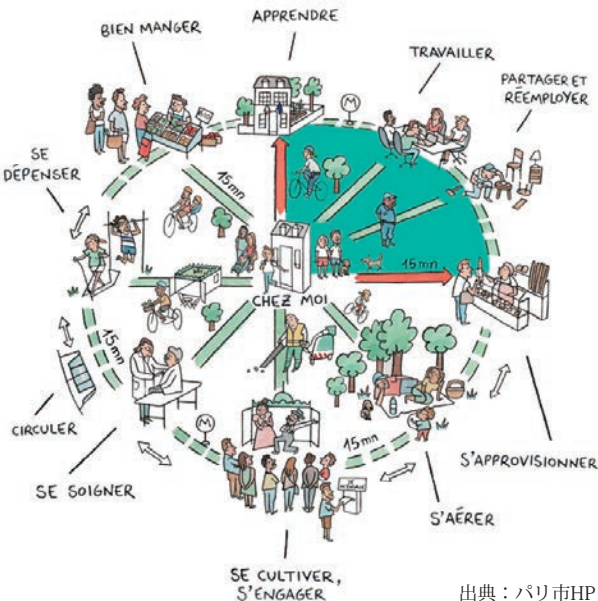


図1 「私の家」を中心に描かれた15分都市のコンセプト

都市生活を実現するための、現代における価値観の重要な転換点です。

クルマ中心から人中心への価値観の変容

このような「人中心」の都市への転換は、単なる機能的な変化に留まらず、社会全体の価値観の変容に深く根ざしています。クルマから徒歩や自転車への転換は、エネルギー政策、CO₂削減、そして車を運転できない高齢者や子どもの移動格差といった課題の解決に貢献するものとして認知されています。人口減少時代に突入した日本においては、特に若い世代を中心に、環境や社会への配慮を重視する価値観へのシフトが顕著です。実際に、それが働き方や暮らし方、住む場所や働く場所の選択にも影響を与え始めています。

社会や環境に関心を持つ都市的なコミュニティに支持されるためには、従来の「より遠く、より速く移動する」というクルマ中心の発想でデザインされた都市から、「より近く、より長く滞留する」という人中心の発想のデザインへと、切り替えていく必要があります。

世界の都市では、この価値観の変化を捉え、クルマ中心から人中心へ、そして市民が交流する場の創出へと、都市デザインのコンセプトの転換が進められています。

実践から見いだす人中心のデザイン・アプローチ

都市デザインの推進力となるのは、都市に暮らす市民の価値観やライフスタイルの変化です。この変化を後押しするためには、市民が自身の生活に密着した場所で、自分たちの意思によって人中心の都市デザインが実現できる可能性を実感してもらうことが重要です。そのためには、ごく普通の日常の生活空間を同時多発的に変えていくアプローチが必要だと考えています。

そこで研究室がスタートしてから毎年、人中心のデザインを体験してもらうための小さな社会実験を、地域にお住まいの方々や研究室の学生と一緒に実践してきました。まちなかの駐車場や公園を対象とする実験（図2）から始めましたが、法制度の改正で各種のモビリティが公道を走れるようになってからは、徒歩だけではなく、自転車や他のモビリティと組み合わせた実験を行っています。

現在は、「小学生の通学・放課後活動における徒歩機会の創出（学校から離れた場所に住む保護者の方々に、通学時や放課後の移動で車やスクールバスの利用の一部を徒歩に置き換える方法を提案）や、「大規模公園周辺での徒歩・自転車利用促進（公園利用者に車ではなく徒歩や自転車で近隣店舗を利用するよう促す社会実験）」などの実践的な研究に、継続的に取り組んでいます（図3）。

既存の公園や道路などの公共空間を物理的に変えることはありませんが、日常的に生活している空間の「一部」を体験的に変えてもらう実践は可能だと考えていま

す。ウォークアブルシティは、特定のまちなかに限定された話ではありません。都市に暮らす全ての人々のライフスタイルに関わる都市デザインなのです。



図2 まちなかの駐車場を公園のように改変する社会実験（2021年11月に富山市内で実施した実験）



図3 車利用が多い公園で自転車を貸し出し、徒歩15分圏内にある駅前の商店街や運河までの移動を促進する社会実験（2024年10月、2025年3月に富山市内で実施した実験）

研究キーワード

- ◎ 人中心のデザイン
- ◎ 徒歩生活圏
- ◎ 15分都市
- ◎ 歩くライフスタイル

利用が見込まれる分野

- ◎ ウォーキング産業（シューズ・ウェア等）
- ◎ アウトドア産業（ベンチ・テント等）
- ◎ 土地活用（空き地・駐車場・自販機設置等）
- ◎ ヘルスケア産業（薬局・健康アプリ等）

今後の展望

地域の資源を最大限に活かし、徒歩生活圏に交流の場を創り出す「歩く」都市のデザインが、コンパクトシティ政策、そしてその先の成熟した都市全体のデザインへとつながると考え、これからも学生たちとともにアクション&リサーチを続けていきます。

産業界へのメッセージ

都市という場所の本質は、人と人が出会う交流の場であることです。都市で暮らしていることのメリットを十分に享受するためにも、徒歩生活圏をフィールドにした、人中心の歩く都市のデザインを、大学と共同・協働で実験・実装してみませんか？ ご連絡をお待ちしています。

産学連携をお考えの方は上記または次の担当部署までお問い合わせください。

◎北陸経済研究所 地域開発調査部
◎北陸銀行 法人ソリューション部 地域創生室

前田 TEL：076-433-1134
水上 TEL：076-423-7180